

全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成7年3月1日発行(通巻第141号)

特集 博物館職員現職研修

平成6年度博物館職員現職研修(ミュージアム・マネジメント研修)は、国立科学博物館及び全国科学博物館協議会の主催により、東京大学教育学部の協力を得て、平成6年12月6日(火)～12月8日(木)の3日間、延べ24時間、国立科学博物館を主会場として、途中東京文化会館や東京大学教育部に移動しながら、全国の科学系博物館に勤務する館長、副館長、課長等の管理部門職員52名の参加で実施された。

以下この事業の概略について紹介する。

◎博物館職員現職研修(ミュージアム・マネジメント研修)の趣旨

情報化・国際化・成熟化の進展、科学技術の高度化、産業構造・経済環境の変化に伴い国民意識は、①物質的豊かさから文化的豊かさへ、②「一生同じ会社で働き続ける単線型ライフサイクル」から「人生途中で多様な選択をする複線型ライフサイクル」へ急速に移行しており、学校教育を中心とした教育システムから生涯学習を中心とした教育システムに変革してゆくことが社会的に強く要請されている。それに加え、近年、科学技術の飛躍的發展や情報化が進展する一方、科学技術に対する無関心や科学技術のブラックボックス化といわれる現象が顕著にみられるようになり、「理工系離れ」が社会的に大きな問題になっている。

こうした変革の時代において、自然科学系博物館に対する社会的要請や課題は一層増大しており、これまでの博物館の在り方を抜本的に見直し、新しい時代に対応できるマネジメント能力が一層必要になってきている。

以上のような問題意識から、社会的要請に対応し博物館の現状を幅広い観点から理解することに重点をおいてマネジメント能力の向上を目指すことをねらいとして平成5年度ではじめて実施されて、今回は2回目になる。

◎募集対象、定員、参加状況

全国42都道府県から受講希望者があった。また、受講者の決定にあたっては、できるだけ多くの要望にこたえるかたちで、50名のところ52名の受入れをおこなった。

参加者の内訳は下表のとおりである。

	総合		自然史		理工		その他		合計
	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
館長・副館長等	4	0	3	3	5	7	1	2	25
部長・課長等	4	0	4	1	2	5	0	0	16
係長等	1	0	1	0	2	2	4	1	11
合計	9		12		23		8		52

～参加者の内訳～

◎プログラム全体について

今回のプログラムは、(1)博物館館長などの実践的経営者、大学等の社会教育研究者、民間企業経営者など多様な視点から博物館経営の在り方についての認識を深めること、(2)マルチメディアやボランティアといった経済社会の変化への対応について認識を深めることに重点をおいて編成されたものである。

また、プログラムの編成にあたっては、①公立の博物館から民間の博物館まで多くの参加者が幅広く興味をもてる内容にすること、②実践的問題をとりあげること重点をおいて事例報告と研究協議の比重を高めることに配慮した。

今回は、「博物館経営概論」、「博物館経営論」において博物館が歴史的転換に直面しており、これまでの“モノ”中

心としたミュージアム・マネジメントから“情報”を中心としたミュージアム・マネジメントの検討などの課題を提示できた。さらに、「博物館経営組織論」、「博物館経営戦略論」、「博物館経営計画論」においては、各館がかかえる問題点や課題、時代の要請に適応したミュージアム・マネジメントの具体的実践について考察することができた。

◎内 容

○博物館経営概論「新しい科学の創造と教育の革新」

慶応義塾大学教授 石井 威望

80年代後半から始まったパラダイム転換がこれまでの価値観を根本的に変革させるものであること、特に近代工業文明の基本的枠組みである“分業”や“統一性”といった考え方はもはや終焉し、これからは“分類を超えたもの”、“法則性を超えたもの”が求められるようになっていることが、インターネットの普及、デジタル革命などを参考しながら指摘された。そして、現在生じている“日本経済の空洞化”や“産業の衰退”の原因は、これまでの成功に固執するあまり、指摘したようなパラダイム転換についてゆくことができなかつたことにあることが確認された。

21世紀の経済社会に求められるのは、インタラクティブ（柔軟性）とエディターメント（娯楽と教育統合）の迫及であり、マルチメディアがますます重要になってきていることが、インターネット先進国であるインドネシアや韓国などを参考に説明された。

こういった変革の時代を生きのびてゆくには、産業界はもとより教育界もこれまでの成功にとらわれない大胆な発想の転換が必要であること。特に教育界はこれまでの“法則性”や“客観性”にとらわれた教育よりも“感性”や“心”を重視したものに転換してゆく必要があることが提起された。

○博物館経営論 「博物館の経営」

UCC コーヒー博物館長 諸岡 博熊

はじめに、アメリカにおける最近のミュージアム・マネジメント研究の動向が紹介され、日本においてミュージアム・マネジメント研究の必要性が確認された。

現代は、生活技術を学ぶ時代（モノを中心に数学や法律などの普遍的な知識をつめこむ時代）から生活技術を応用して楽しむ時代（情報の時代）に移行している。そういった意味でミュージアム・マネジメントもモノを中心としたハードウェアの時代からソフトウェアを中心としたものへ転換してゆく必要があり、21世紀の博物館はヒューマンウェアに徹しなければならないことが指摘された。

主要研修事項	主 な 内 容	研修方法
博 物 館 経 営 概 論	新しい科学の創造と教育の革新	講 義
博 物 館 経 営 論	博物館の経営	講義と質疑応答
博 物 館 経 営 組 織 論	1. 博物館経営者の役割 2. 博物館における人材育成（ボランティアの養成と活用を中心として）	講義 事例報告と研究協議
博 物 館 経 営 戦 略 論	1. 博物館の経営と集客戦略 2. 時代の流れを先取りした経営戦略 ○アミューズメント時代の戦略的経営 ○生涯学習時代の戦略的経営	講義と質疑応答 事例報告と研究協議 事例報告と研究協議
博 物 館 経 営 計 画 論	1. これからの博物館におけるハイテクを用いた展示技術の可能性 2. 展示更新の理念と実践 (選択研修) 3. 企業のソフト化経営戦略 4. 現代的課題に対応した新しい参加体験型博物館	講 義 事例報告と質疑応答 講義・視察・研究協議 講義・視察・研究協議
特 別 鑑 賞	交響楽団定期演奏会の夕べ (会場：東京文化会館)	

～プログラム概略～

そして、これからの博物館経営者が持たなければならない課題として次のことが指摘された。

- ①人事、組織の重要性（マネージャー、アートディレクターの役割を明確にし、柔軟な意思決定ができるシステムをつくらなければならないこと）
- ②経営戦略としてのマーケティング、パブリシティの必要性（人々の意識の変化に対応して、公共性を重視してゆくこと）
- ③エンターテインメント、コミュニケーションの重要性（人々との出会いやかかわりあいを重視すること）

そして、最後に企業博物館の運営にあたる心構えとして、市民の生活文化が豊かになれば最終的には企業も豊かになるという発想が大切であることが提起された。

○博物館経営組織論 「博物館経営者の役割」

前国立科学博物館長 川村 恒明

経営のトップに在る者としては、(1)政策の立案、(2)組織の管理、(3)大使としての役割があることがあげられ、以上の視点から、国立科学博物館が抱える問題点と課題が具体的に述べられた。

(1)政策立案者として、①アミュージアム的なおもしろさを前面に出す、②形態を主とする分類学に焦点をあてた自然史研究センターを重視する、③時代のニーズに応じたプラン作りが必要であることがあげられ、特に博物館と地域、学校とのネットワークづくりが重要であることが述べられた。

(2)組織の管理者として、①学芸員、ボランティアの育成とチームワークづくりが大切であること、②お金儲けの努力をしていく中で館員の意識改革が必要になっていることがあげられた。

(3)大使としての役割として、①「お客様は神様である」という意識で、利用者の観点にたつてものを考え、外部にPRしていくこと、②お客様には経済原則に基づくお客様と経済原則に基づかないお客様がおり、それに対する対応は館への貢献度によって割り切らなければならないことが述べられた。

○博物館経営組織論 「博物館における人材育成」

(ボランティアの活用を中心として)

事例報告：財団法人日本児童手当協会こどもの城企画研修

教養部長 岩崎 清

事例報告：東京都恩賜動物公園飼育課長 中山 恒輔

事例報告：国立科学博物館教育部企画課長 坂井 知志

解説：東京大学教育学部助教 鈴木眞理

こどもの城、上野動物園、国立科学博物館から、ボランティア制度を運用する際の問題点と課題が報告された後、

①博物館側の要望とボランティア側の要望の乖離をどう調整するか、②ボランティアにどこまで権限を与えるか、③活動するにあたってボランティアの能力を十分に発揮させるにはどうするのか、④採用後にボランティアの能力を向上させる研修の在り方と評価の問題、⑤ボランティアの組織化をはかるにはどうすればよいかといった問題について、参加各館の事例を中心に闊達な議論が展開された。

○博物館経営戦略論 「博物館の経営と集客戦略」

環境プロデューサー 泉 眞也

世紀末の現代がかかえる問題として、①ボーダレス時代の漠然たる不安、②人生80年時代の余暇の増大が具体的社会現象を素材にして指摘され、人々は幅広い知識と教養を求めていることが指摘された。

時代の流れをよんで、集客に効果をあげている施設として、アースシェアリング（地球環境と技術の共生）をいかした掛川市のコミュニティーグリーン構想、日本はきもの博物館、トヨタ産業技術記念館、スミソニアン航空宇宙博物館、ベンツ博物館などの事例が紹介された。そして、博物館は貴重な文物の収集、保存、研究とその成果を公開するといった学術的要素を重視した性格から、市民の交流と楽しみの広場、生涯学習の拠点といったものに移行しなければならないことが確認された。

MITのマイケル・ジョロフ教授の「21世紀のMITは、限りなくディズニーワールドに近づくだろう。逆にディズニーワールドは限りなくMITに近づくだろう」という問題提起をキーワードに、これからの博物館は、シンポジウムや討論会を企画したり、新しいネットワークを構築したり、

マルチメディアを積極的に導入することが必要であることが提起された。

博物館経営戦略論 時代の流れを先取りした戦略的経営 (分科会)

「アミューズメント時代の戦略的経営」

鳥羽水族館長 中村 幸昭

バブル経済崩壊以降、我が国における博物館は経営危機に直面していることが指摘され、博物館が生き残ってゆくためには、発想の転換が必要であることが提起された。

特に鳥羽水族館の具体的経営、特に①リゾート法の効果的活用、②ミュージアムショップの戦略的展開、③女性にターゲットを絞ったマーケット戦略などを参考にしながら、経営戦略立案の手法が明らかにされた。

また、これからのアミューズメント時代の経営戦略は、(1)環境問題、(2)女性、(3)価格破壊、(4)余暇の増大、(5)偽物の時代を念頭においたものでなければならないことが指摘され、成功するためのポイントとして①マスコミ利用の重要性、②未来志向を持った博物館経営が具体的に提起された。

○博物館経営戦略論 時代の流れを先取りした経営戦略 (分科会)

「生涯学習時代の戦略的経営」

栃木県子ども総合科学館長 野中ハツエ

生涯学習時代の博物館が取り組まなければならない問題点と課題について栃木県子ども総合科学館の事例を中心に報告がなされ、各館が抱える問題点の解決策について議論が展開された。

報告及び討議された問題は以下の7点であった。

- (1)生涯学習の時代では、子どもだけではなく、親子やシルバー世代に対するアプローチが必要になっており、そのためには発達段階別、年代別に入館者を制限した展示も必要になっていること。
- (2)閑散期の対策としてガイドツアーやプラネタリウムなどサービスソフトを重視した企画が必要になっていること。
- (3)教育普及活動のプログラムを充実すること。(①親子が

一緒に参加できるプログラムを企画すること、②青少年の創造性を高めるプログラムを企画すること。

(4)地域と連携する事業を充実させてゆくこと。

(5)学校との提携を充実すること。(教師を対象とした講習や研修の実施、教材の協力)

(6)広報活動を充実すること。

(7)職員及びボランティアの能力育成について。

○博物館経営計画論

「これからの博物館におけるハイテクを用いた展示技術の可能性」

東京大学工学部教授 原島 博

NHK エンタープライズ 一色伸夫

21世紀の社会は、個人のニーズに応じた情報を提供することが求められており、人間本来の情報の受け取り方、感じ方に近づけていこうとするマルチメディアが時代の主役になっていることが説明された。

マルチメディアやバーチャルリアリティを利用した展示として、難病の子供たちに対するオリジナルソフトの提供の具体的事例が報告され、マルチメディアの有用性は、それによって作り出す仮想環境で、今まで体験不可能であったことが体験できるようになったことにあることが説明された。

マルチメディア時代の博物館経営の問題としては、①展示を博物館外に出前することの可能性、②「映像のデータベース化」による展示スペースの問題解消の有効性が重要になってきていることが提起され、最後にマルチメディア時代に考慮しなければならないこととして、人間の5感の全てを刺激してかえって想像力をはたらかせる余地を奪ってしまう「体感メディア」よりも、人間の6番目の感覚、「想像力」を刺激し、ふくらませる「心感メディア」が重要であることが指摘された。

○ 博物館経営計画論 「展示更新の理念と実績」

国立科学博物館普及部長 佐々木勝浩

平成5年度に実施された国立科学博物館の展示変更について、その企画から実施までの具体的展開が述べられた。そこでは、展示更新において博物館自体が①長期的構想を

もって実施することが必要なこと、②その枠組みの中で展示更新の目標を設定すること、③展示更新にあたっては優先順位を明確にすることの必要性が確認された。

これからの展示に必要な意識改革の視点として(1)非日常空間として演出することの重要性、(2)生涯学習に対する取組みとして、子どもから大人までひろい層に親しんでもらう配慮が必要であること(①照明を明るくする、②解説文字を大きくするなどの工夫が必要なこと)、(3)新しい技術を積極的に取り込んでゆくこと(利用者に自然科学の感動を伝えるために、①バーチャルリアリティー、②ハイビジョンの導入を検討すること)が指摘された。

そして、展示更新のプロセスにおいて、生産管理論などで用いられている品質管理を応用することが可能ではないかという問題提起が行われた。

事例報告後、基本的理念が実際の展示にどのようにいかされているのかという視点で館内見学と質疑応答が行なわれ、ニューメディアの導入やバーチャルリアリティーの導入についての問題点や課題が議論された。

◎選択研修

12月9日(金)セゾン美術館・西武百貨店において「企業のソフト化経営戦略」の現地研修、12月10日(土)茨城県自然博物館において「現代的課題に対応した新しい参加体験型博物館」の現地研修を選択で実施した。

内容は以下のとおりである。

○博物館経営計画論 「企業のソフト化経営戦略」

株式会社西友常務取締役・文化事業部長 宇佐美 昭次

企業の文化的事業は(1)メセナの事業と、(2)営利的事業に大別でき、主として(1)のメセナの事業を実施する意義とそれを実施する際の問題点と課題について、文化経済学の視点から、西友の事例を中心に検討が行われた。

メセナの事業を実施する際考慮しなければならないこととして、①トレンドを把握する、②産業的発想から脱却する、③高い社会的評価をめざすことの重要性が指摘され、セゾングループは、①愛情と理解、②継続力、③想像力をキャッチフレーズに文化事業を展開していることが述べられた。

また、文化活動におけるマネージメントとして心掛けね

ばならないこととして、

①企画から生産性向上を目指した長・中・短期計画の策定、②収入と支出の徹底的なシュミレーションによる確認、③キャラクターグッズ等の周辺ビジネスの展開、④協賛金等による外部資金調達が指摘された。

報告後、企画作成・運営・集客法等には企業で蓄積されたマーケット調査、マネージメント等がどうかされているかという視点でセゾン美術館を視察し、サービスと事業企画力(特にハイビジョンの効果的活用)には参加者から多くの反響があった。

○博物館経営計画論 「現代的課題に対応した新しい参加体験型博物館」

茨城県自然博物館教育課長 早瀬 長利

茨城県自然博物館の(1)建設経過、(2)特色、(3)運営方針、(4)組織及び業務内容等が説明され、それがどのように展示にいかされているのかという視点で見学を実施した。

茨城県自然博物館は、①生涯学習時代に期待されている教育的課題にこたえる博物館、②環境教育を実践する教育施設として設置され、③ストーリー性をもった参加体験展示と周囲の自然環境と博物館を有機的に結びつけて設計されている。

そして地域に根ざした自然に関する総合的生涯学習施設として、①社会教育や学校教育と連携した教育普及活動、②宿泊関連施設や地域の施設との連携、③姉妹博物館などの国際交流などを実施していることなどが説明された。

特に、「博物館に勤務する職員全員が学芸員である。」という考え方で運営されている柔軟な組織設計の方法については、参加者から多くの反響があった。

◎研修記録(ミュージアム・マネージメントII)の発刊

博物館相互のネットワークの拡大と博物館界の円滑適正な運営に資することを目的に、本研修事業の記録をまとめ、全科協加盟館、希望各館及び各都道府県教育委員会に配付する予定である。

◎今後の展望

博物館のマネージメントについての研修に対する要望は大きく、今回の研修についても、参加者から積極的評価を得ることができた。来年度も今回の研修成果を踏まえ、さらにより良いプログラムを立案して引き続き実施する予定である。

国立科学博物館と地域の科学系博物館との共催による博物館連携促進事業

国立科学博物館 教育部

1. はじめに

科学離れが叫ばれている今日、青少年に豊かな科学活動の機会を提供することは極めて重要であり、科学系博物館の果たすべき役割が増大している。

これに関連して、国立科学博物館では、平成5年度より各地の公立の科学系博物館と協力して、地域の科学活動指導者を対象とした研修研究講座を、博物館連携促進事業として実施している。これにより、参加者の科学活動指導者としての資質の向上と、地域での科学教育の充実を図るとともに、この事業を通してそれぞれの地域における博物館と学校、博物館相互間の連携を深めることをねらいとしている。

ここでは、これまで行ってきた本事業のあらましを紹介し、各館における今後の活動の参考に供することとしたい。

2. 事業の概要

事業の概要は次の通りである。

- 1) この事業は公立の科学系博物館と国立科学博物館とが共同で主催し、研修研究講座等の事業を行うものである。
- 2) 研修研究講座の概要
 - (1) 受講対象：地域の学校教員、青少年教育団体の指導者、博物館学芸員等。
 - (2) 定員：30人程度。
 - (3) 期間：2～3日間程度。
 - (4) 会場：共同主催する公立の科学系博物館（以下「共催館」という）。
 - (5) 研修内容：事業の内容は次のようなものであった。
 - ① 標本資料、教材作製等の実技実習
 - ② 製作標本を活用した学習指導の実践に関する討議
 - ③ 博物館の効果的利用方法に関する講義

④ 博物館における教育普及活動に関する情報提供

- (6) 講座の指導：国立科学博物館及び共催館の専門職員が共同で指導を担当する。

3. 事業の実施状況

1) 事業実施の概要

事業の実施に先だつて「企画実施委員会」を開催し、事業の具体的内容、実施方法、日程等について検討した。この委員会は、国立科学博物館職員と共催館及び近隣の博物館学芸員並びにその地域の科学教育指導者等数名で構成された。また、各館の指導担当者は、事業開催に先だつて、国立科学博物館職員と実技指導方法等に関する研修と、綿密な打合せを行った。さらに、各館の事業が終了した後は、各共催館の担当者が国立科学博物館に於て、事業全般について評価を行った。

平成5年度と6年度に行った本事業の概要は表1及び2の通りである。

さらに平成7年度は次の3地区4館と連携して同様の事業を行う予定で準備を進めている。

- (北海道地区) 滝川市美術自然史館・滝川市こども科学館
- (東北地区) 山形県立博物館
- (四国地区) 愛媛県総合科学博物館

2) 実習の内容

国立科学博物館では平成4年からティーチャーズセンターを開設し、学校教員等を対象に標本製作実習などの実技研修を行い、学校の博物館に対する期待に応えるとともに、教師の博物館利用の促進を図り、次第にその成果を上げてきている。本事業においても、ティーチャーズセンターでの研修指導の経験を踏まえ、化石のレプリカ製作や、植物のラミネート標本の製作等、学校教材用の標本資料の作り方を中心として実習指導を行った。

3) 受講者の反応と研修の成果

受講者の感想は、日頃体験することのできない実習をすることができて有益であったという感想が多く、概ね好評であった。実際に実習で習得した資料製作方法を学校の授業で実践した教員が多い。この研修を機に学校内にミニ博物館的な展示場を作ろうと考えている熱心な教員もいる。

この事業を実施した大きな収穫としては、日頃博物館に

余り関心をもっていない教員が地元の博物館を身近に感じたことであろう。これは学校での指導にも生かされ、児童生徒にも博物館への関心が広がっていくに違いない。

4. 今後の課題

本事業はそれぞれ好評を得ているが、これを実施年度のみ終わらせることなく、各博物館なりに内容をさらに吟味して独自のものとして継続していくことが必要であろう。ここでは、鹿児島県立博物館の例を示し、参考としたい。

同館は平成5年度にこの事業を行ったが、その翌年の平成6年度には館独自に理科担当教員、学芸員、動植物園関係者を対象に「地域科学活動指導者セミナー」を実施した。内容は、実技研修として「化石レプリカ標本、植物標本、小哺乳類の剥製標本の製作」、講義として「博物館の教育普及活動と効果的利用」などであり、また、5年度の研修内容を学校で実践した教員による事例発表も行われたということである。

平成7年度にはこの事業をさらに発展させ「生涯学習県民大学教養講座」を9月下旬に行う予定であると聞いている。

5. おわりに

本事業の実施により、科学活動指導者が博物館活動に対する理解を深め、博物館と学校の連携が緊密化し、さらに科学系博物館間のネットワークの形成が促進されることを期待している。今後もこの事業を継続し、多くの科学系博物館と共催事業を行い、相互の連携の輪を広げたいものと思っているので、全国の科学系博物館のご理解とご協力をお願いしたい。平成8年度以降希望される館は早めに教育部科学教育室へご連絡いただきたいと考えている。



化石レプリカ標本作製実習風景

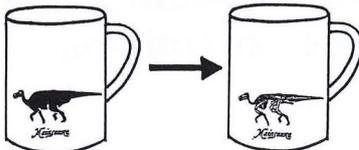
表1. 平成5年度の事業実施状況

	実施時期	実習内容	講義・討議の内容	受講者数
兵庫県立人と自然の博物館	8月19日(木)～20日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 化石レプリカ標本作製 岩石薄片標本作製 	<ul style="list-style-type: none"> 製作標本を利用した学習指導の実践 博物館の教育普及活動と効果的な利用方法 	35名
秋田県立博物館	10月1日(金)～2日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 植物ラミネート標本作製 植物葉脈標本作製 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館の教育普及活動と効果的な利用方法 	28名
鹿児島県立博物館	11月13日(土)～14日(日)	<ul style="list-style-type: none"> 植物ラミネート標本作製 簡易スンプ法標本作製 小哺乳類剥製標本作製 化石レプリカ標本作製 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館の教育普及活動と効果的な利用方法 製作標本を利用した学習指導の実践 生涯学習指導における博物館活動のあり方 	37名

表2. 平成6年度の事業実施状況

	実施時期	実習内容	講義・討 議の内容	受講者数
鳥 取 県 立 博 物 館	9月30日(火) ～10月1日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・植物観察 及び採集 ・植物標本 の作製 ・ラミネー ト標本の 作製 ・化石レプ リカ標本 の作製 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物標本の 意義と作り 方 ・博物館の教 育普及活動 の現状と課 題 	23名
岐 阜 県 立 博 物 館	10月6日(月) ～7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・化石のレ プリカ標 本作製 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立科学博 物館におけ る昆虫標本 の収集・管 理と利用 ・博物館の保 存環境 ・実物を利用 した学習指 導の実践 	35名

恐竜マグ



あたたかい飲みものを入れると
骨格図にかかります!!

株式会社 アンティー

TEL 03-3467-6555 〒151 渋谷区富ヶ谷1-17-9
FAX 03-3467-6568 パークハイム302

* ミュージアム・ショップグッズの企画・製作・販売 (マグカップ、Tシャツetc.)
* 特設売店の代行

感動環境 創造会社です。

NOMURA

株式会社 **乃村工芸社**
本社: 東京都港区芝浦4-6-4・電話03-3455-1171代 〒108
営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工



COLORATA

Venture Into The Past The Living Earth Communication For The Future

ミュージアムグッズの企画・デザイン

カラータ株 〒111 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル3F
TEL03-3865-8110 FAX03-3864-4049

美術

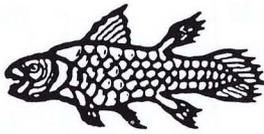
はく製

〈各種生物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース

有限
会社 東洋近代美術研究所

製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎0473-37-5678
☎0473-37-5883
FAX 0473-38-1978

本 社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25 ☎0473-74-1564





INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT

ONY KOBO CO.,LTD.

東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL (03) 3221-1102代 FAX (03) 3221-1185



動物園/水族館/博物館
企画・設計・施工

海外ニュース

(ハイフォン・安井亮)

<新設館>

米バージニア子供博物館がオープン

バージニア州ポーツマス市に、建築総延べ床面積が約2,500m²のバージニア子供博物館が1994年12月にオープンした。同館では、科学、技術、アート、音楽、少数民族のテーマが複合的に展示を構成している。「君とボク」のコーナーでは、アメリカの少数民族の文化が紹介され、また街の一角を再現した「ザ・シティー」では、八百屋、銀行、警察、消防隊の仕事を体験できる。同館はゆくゆくは、同州では最大の子供博物館（建築総延べ床面積：約6,000m²）に整備する予定だ。

<拡張計画>

米グレート・レークス科学館

アメリカの5大湖の環境を主なテーマにしたグレート・レークス科学館が、総工費55,000,000ドルをかけて、建築総延べ床面積約15,400m²に拡張されることになった。同館では、325席のオムニマックス・シアターや400台の体験型展示装置を設けられるが、5大湖の環境を紹介したマルチメディア型の体験型学習ホールが最大の目玉になる。

米テック・ミュージアム

総工費79,000,000ドルをかけて、シリコン・バレーの最先端技術を紹介しているテック・ミュージアム（加州サンホセ）が、建築総延べ床面積約12,500m²の施設に生まれ変わる。完成は1999年。現在の施設（建築総延べ床面積約1,700m²）の年間入館者は88,611人（1994）だが、新しい施設には年間入館者は650,000人が見積もられている。

<展示>

ニューヨーク自然史博物館で、恐竜展示ホールがオープン1992年以来、恐竜展示の大幅な更新が行われていたニューヨーク自然史博物館に竜盤類と鳥盤類の二つの恐竜展示ホールが公開される。同館の恐竜に関する研究は、質実とも過去1世紀の間、世界の恐竜研究をリードし、同展示はいわば同館の恐竜研究の集大成の一部でもある。100点を超える恐竜の標本が展示され、このうち85%が実物である。最新のマルチメディア技術が大々的に導入されたインタラクティブ情報ブースでは、恐竜の大きさ、アニメーションや吼え声等の情報が検索によって得られ、また同館のキュレーターとのビデオ・インタビューのメニューも用意されて

いる。最新の研究成果を踏まえ、いくつかの有名な恐竜の骨格標本が目玉展示として再登場した。中でも、ティラノサウルス・レックスは観客の背丈の位置に頭骨を下げ、あたかも堂々とのし歩く姿が見られ、またアパトサウルスも新しい頭骨と頸骨にすげ替えられた。その他に今まで公開されなかった恐竜のミーラや世界でも数少ないベロキラプトル（竜盤類ドロマエオサウルス科）の標本も見られる。1995年6月2日のオープニングに先立ち、5月16日にはマスコミへのプレビュー公開とパネルディスカッションが行われた。なお1996年末には、恐竜の展示改装が全て終わり、これによって獣脚類、剣竜類、曲竜類および角竜類の展示ホールも整備されることになる。

ロンドン国立科学博物館で、健康科学の展示がオープン最新の研究成果を取り得た健康科学の常設展が、ロンドン国立科学博物館にオープンした。展示面積500m²。主な助成者は、スミスクライン・ビーチャム社、英心臓外科学会、ウェルカム財団等。

<バーチャル・リアリティー>

カーネギー科学館の細胞探査のVRプログラム

全米科学振興財団より総額600,937ドルの助成を受けて、カーネギー科学館で、細胞の中を旅するプラネタリウム用のVRプログラムの開発が進行中だ。完成は1995年8月。

米グラス科学館の歯の治療のVRプログラム

グラス歯科学会からの全面的な助成を受けて、口腔衛生に関する常設的なVRプログラムが、グラス科学館でスタートした。年齢対象は7才以下の児童だ。



パリ国立自然史博物館の目玉展示“Caravane africaine”(撮影 Laurent Bessol Museum © National d'Historie Naturelle)

*ハイフォン Fax: 03-3496-2146; Niftyserve: GGH00311

◎平成7年度事業計画総会で決定

平成7年3月1日(水)、斎藤報恩会自然史博物館において、平成6年度第2回総会が開催されました。今回の出席館数は61館、委任状提出館数は87館で、7年度の事業計画及び収支予算並びに平成6年度補正予算が決定されました。

これによって、平成7年度の事業活動は、連携促進事業等の拡充など、より一層の充実を図ることになりました。以下にその内容を御紹介します。

<加盟館園の状況>

区 分	平成5年度末	平成7年 2月28日現在	増 減
正会員	205	214	9
購読会員	14	20	6
維持会員	28	35	7
計	247	269	22

<平成7年度事業計画>

①理事会

年2回開催する。期日：第1回 平成7年6月中旬、第2回 平成8年2月下旬。会場：国立科学博物館。

②総 会

年2回開催する。期日：第1回 平成7年6月中旬、第2回 平成8年3月上旬。会場：第1回 国立科学博物館、第2回 検討中。

③海外科学系博物館視察研修

北米の科学系博物館における展示技術、教育普及活動等について視察研修を実施する。6年度に引き続き正会員を対象に研修援助費を支給する。期日：平成8年1月14日間。

④博物館職員現職研修(ミュージアム・マネージメント研修)

博物館経営に関する資質向上を図るため、生涯学習時代における博物館の役割、博物館経営の視点等の講義、討論を行い、博物館経営者としての力量を高める。

期日：平成7年11月～12月(3日間程度)。

共催：文部省、国立科学博物館。

⑤学芸員専門研修(アドバンスト・コース)

博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに、資料の収集・保管、調査研究、展示・教育普及活動等について専門的、実践的な研修を行う。期日：平成7年11月(5日間程度)。共催：文部省、国立科学博物館。

⑥研究発表大会

博物館活動の充実に資するため、展示、教育普及活動、研究活動等に関する成果について、発表及び研究協議を実施する。期日：平成8年3月上旬(予定)。会場：検討中。

⑦巡回展等実施準備調査

会員館園の共同企画による巡回展及び共同企画等の実施に向けて、その準備調査を実施する。委員：6名。

⑧科学系博物館資料情報のネットワーク化に関する調査研究

科学系博物館の資料情報のネットワークシステムのモデルの事業の実施及び全国的なネットワーク形成のための方策について調査研究を行う。委員：12名。

⑨会員相互の協力事業

会員館園が実施する特別展、企画展・移動展、標本資料の貸借に関して相互に協力する。

⑩事業に対する共催・後援等

加盟館園や関係機関等が実施する事業で、全科協の設置目的に適合し、適当と認められる事業に対し共催・後援等を行う。

⑪機関紙の発行

機関紙「全科協ニュース」を年6回、A4版12ページ8,400部を発行する。なお、編集発行事務は、編集委員館が行う。編集委員館には、仙台市科学館、逓信総合博物館、でんきの科学館、鳥取県立博物館、国立科学博物館等が予定されている。

⑫入会案内及び広報活動

新設の科学系博物館等に対して入会の勧誘を行うほか、

全科協の活動について、広く広報を行う。

催されます。以下日程等をお知らせします。

詳細は ICOM日本委員会事務局（日博協内）にお問合せください。

⑬全科協データブックの作成

平成4年版全科協データブックの改訂版を作成し、全科協加盟館及び関係機関に配布する（石橋財団助成事業）委員：12名。

<平成7年度収支予算>（単位：千円）

[収入]	前期繰越金	803
	会員会費	3,823
	参加費	7,750
	雑収入	822
	寄付金等	1,000
	助成金（特別会計）	未定
	収入合計	14,198
[支出]	理事会・総会費	626
	海外科学系博物館視察研修費	8,000
	博物館職員現職研修費	248
	学芸員専門研修費	215
	研究発表大会費	888
	巡回展等実施準備調査費	418
	資情報のネットワーク化に関スル調査費	889
	全科協ニュース発行費	2,015
	入会案内及び広報活動費	137
	データブック作成費	未定
	予備費	762
	支出合計	14,198

<平成6年度補正予算について>

科学系博物館における研究発表大会及び巡回展等実施準備調査並びに科学系博物館の資料情報のネットワーク化に関する調査研究に対する国庫補助金（文部省民間社会教育振興費補助金）の交付に伴う補正。

以上、平成7年度の事業計画及び収支予算等が決定しました。加盟館園の皆様の御理解と御協力をお願いしますとともに、事業への多数の御参加をお待ちしています。

◎「第27回 ICOM定例会議」のお知らせ

ICOM定例会議が平成7年7月2日(日)から6日間の日程で、ノルウェイのスタヴァンゲル市、ロガランド郡で開

期 間	内 容	時 間
第1日 7月2日(日)	登録受付 開会式及び基調講演 トレード・フェア開幕 国際委員会 各地区団体及び欧州グループ コンサート及びレセプション	7:00～ 9:00～12:00 12:00～14:00 14:00～17:00 17:30～19:30 20:00～
第2日 7月3日(月)	諮問委員会及びテーマ関連講演 運営評議会 各地域団体及び欧州グループの 幹部合同会議	9:00～12:00 14:00～ 17:30～19:30
第3日 7月4日(火)	国際委員会 決済委員会 プログラム委員会 倫理委員会 各地域団体及び欧州グループ	9:00～17:00 12:00～14:00 17:30～19:30
第4日 7月5日(水)	運営委員会 国際委員会 決済委員会 プログラム委員会 倫理委員会 編集委員会	9:00～12:00 9:00～17:00 12:00～ 9:00～
第5日 7月6日(木)	視察	9:00～
第6日 7月7日(金)	総会 諮問委員会 最終セッション 評議委員会 フェアウェル・パーティー	9:00～12:00 12:00～14:00 14:00～16:00 16:30～18:00 20:00～

編集後記

本号の発行が編集者の不行届により大幅に遅れたこととお詫び申し上げます
次回は仙台市科学館の担当です。
ご期待ください。

体験型展示装置

- 科学実験装置
- 体感映像装置
- パソコンQ&A
- ロボット
- 水の遊具

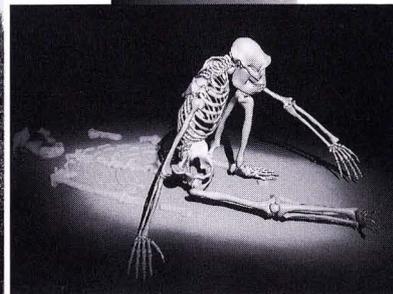
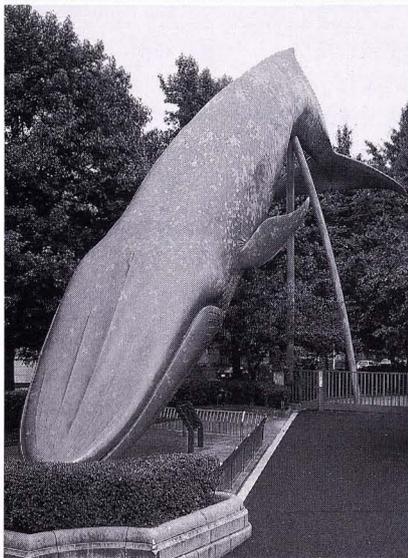
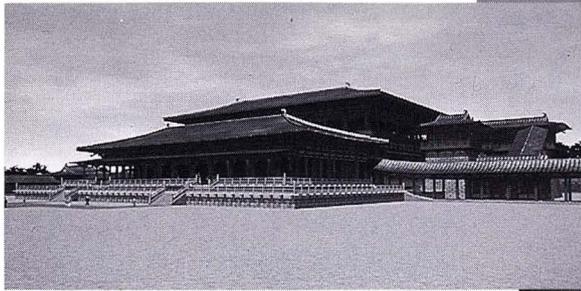
企画・設計 製作 改造・修理

迅速な対応 / 新しいアイデア・豊富な設計ストックがあります。

— 科学系文化施設専門18年 —

株式会社メガ・システム開発
〒153 東京都目黒区目黒1-2-23-10

TEL.03-3493-8864
FAX.03-3493-1870



ドキドキの想像を ワクワクの創造へ

アート&サイエンスは独自の技術と企画力で
博物館を総合プロデュースします。



株式会社 アート&サイエンス

〒162 東京都新宿区水道町3-1
水道町ビル4F
TEL. 03-3260-7800
FAX. 03-3260-7802

営業種目/総合展示企画・設計・デザイン・
プロデュース・演出・施工管理・コンピュー
ターグラフィックスを中心とした映像企画/
制作・関連の商品企画・制作

左上より
京都文化博物館 大唐長安展映像企画/制作
NHKスペシャル「天才ザルカンジくん」映像企画
国立科学博物館シロナガスクジラ実物大模型企画/設計/制作

感じる科学

動刻

▲恐竜ロボット
ティラノサウルス

▲人体型ロボット
コスモ博士(宮崎科学技術館)



文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL0425(30)3911(代)・3939(営業)
FAX0425(30) 3900・3927(営業)